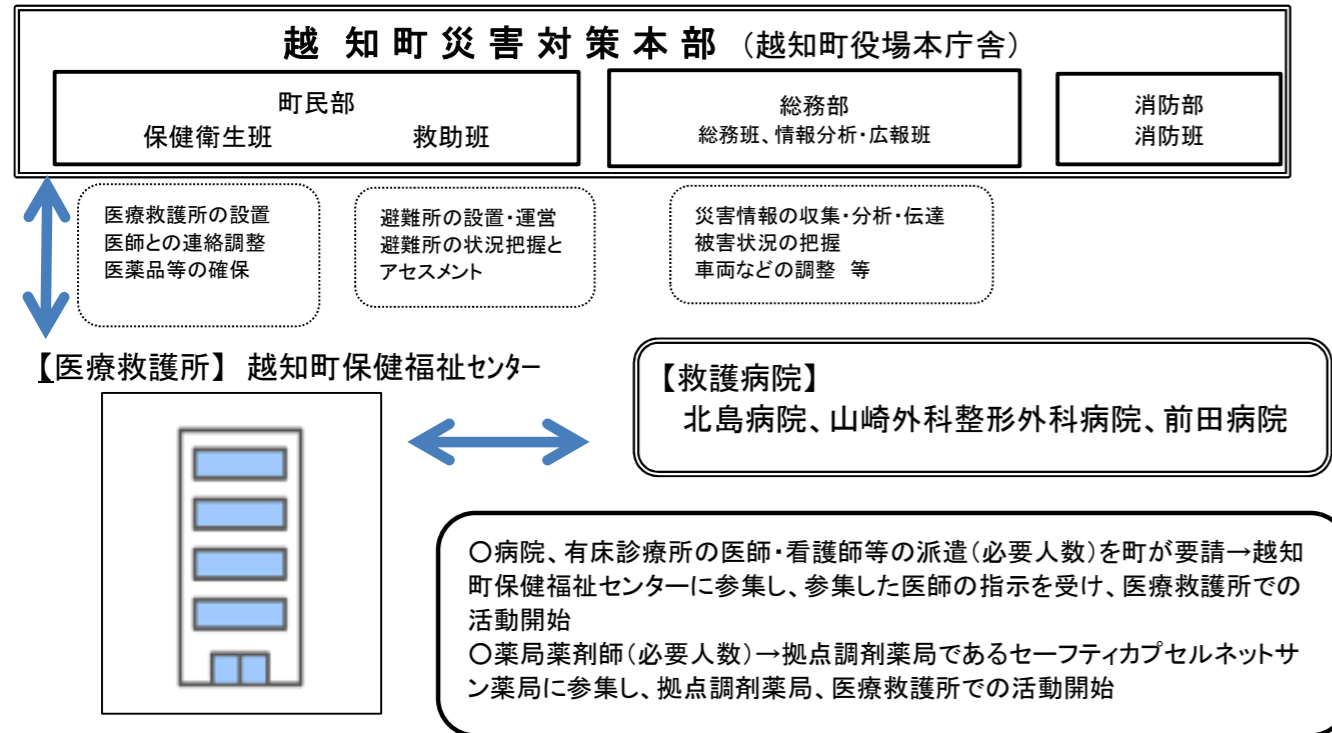


越知町の医療救護の目指す姿

南海トラフ地震(L1)、夏の昼12時に発生したと想定

越知町災害対策本部は、町内病院の医師の医学的な助言を受け、町全体の医療救護活動の総合調整を行い、町内の人や物を総動員し、官民協働の総力戦による医療救護活動体制を迅速に整備し、助かった命をつなぎます。



負傷者等の流れ



災害時の救護活動体制

越知町の人口 5,858人 (H29. 4. 1現在)

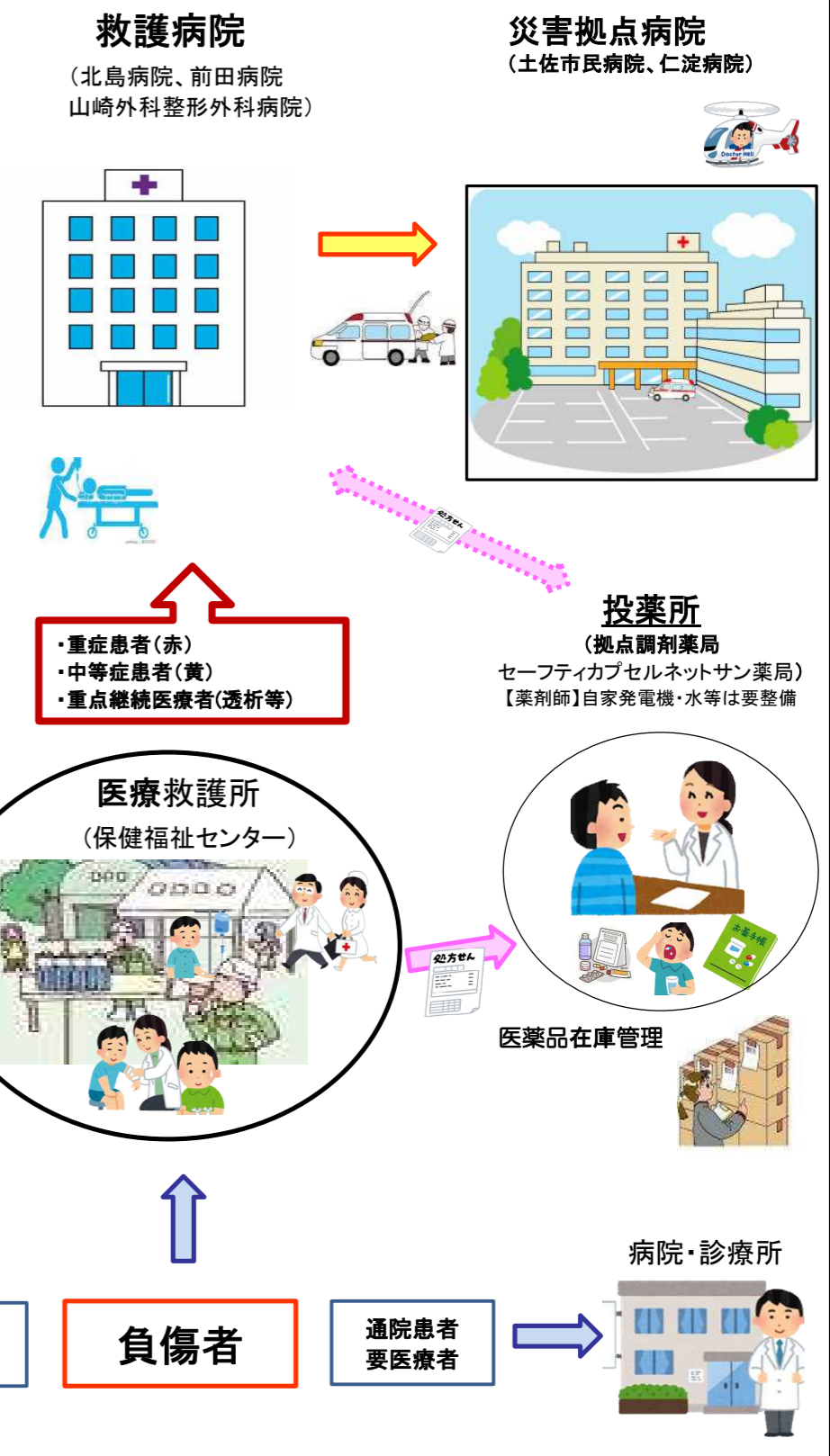
・死亡者数 (-)
・避難者数 9人
・負傷者数 9人 (●1人 ●2人 ●6人)

L2

・死亡者数 26人
・避難者数 1,056人
・負傷者数 255人 (●26人 ●51人 ●178人)

【町内の医療機関等】

- ①病院 4 → 医師25名(町内在住数 3名)
看護師124名(町内在住数 46名)
- ②有床診療所 2 → 医師3名(町内在住数 3名)
看護師12名(町内在住数 7名)
- ※救急救命士 1~4名(高吾北消防署)
- ③人工透析医療機関 1
- ④薬局 4
- ⑤特別養護老人ホーム 1(80名)
- ⑥救急車両台数 1台(高吾北消防署)



目指す姿の実現に向けた課題

- 1 住民への普及啓発: 町内の医療救護体制の周知、応急手当の習熟、避難時のお薬手帳や常備薬の持参
- 2 医療従事者(医師・看護師・薬剤師)の応援体制の確立
- 3 重症患者の災害拠点病院への搬送手段の確保
- 4 災害医療救護訓練を通じた各機関の連携体制の強化
(L2を視野に入れた医療救護体制のあり方について、町医師クラブと越知町等との協議)